

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 地行マンション	階数	地上11F
建設地	福岡県福岡市中央区	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、第2種住居地域、	平均居住人員	204 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年3月16日
敷地面積	2,398 m ²	作成者	渡邊 浩之
建築面積	1,117 m ²	確認日	2017年3月17日
延床面積	5,426 m ²	確認者	中尾 俊平



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>地域の特性や景観に配慮した建物を目指し、さらに省エネルギー化を図ることで、地球環境保全に貢献しています。</p> <p>の活用や道路に面した部分に植栽帯を設け、緑豊かな景観に配慮しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 省エネ、高効率な設備を採用しました。 	0
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>高い断熱性の確保や日射に配慮し、外皮性能を向上させました。また、ホルムアルデヒドの発散を抑えた建材を使用し、安心で快適な居住空間に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 複層ガラス、外断熱工法により、品確法省エネ等級4を 	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>敷地は福岡ヤフオクドームへと続く大通りに面しているため、周囲の街並みに配慮した景観計画としました。また、樹木はなるべく残し、緑地の確保にも努めました。道路に面して植栽帯を設け、緑豊かな周辺環境に配慮し</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>環境保全に配慮し、省エネルギーの設備を採用しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 省エネ & 省コスト実現のためオール電化とし、共用部はLED照明、給湯器はエコキュートを採用しています。 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>光害(漏れ光など)によって周囲に悪影響を与えないよう、外灯など照明器具は設置位置や高さを検討し、また、センサーによる管理を採用しました。</p> <p>外灯の点灯・消灯はセンサー制御としています。</p>
<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>段差や廊下幅などバリアフリーに配慮し、高齢者や障害者の方にも安心して安全な建物を目指しました。</p> <p>福岡市福祉のまちづくり条例の整備基準をクリアしました。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>雨水の流出抑制のため、雨水浸透枡を設置しています。</p> <p>また、屋外駐車場の一部を住棟内に取り込み、屋外アスファルト面を縮小するなど、ヒートアイランド現象の緩和を図りました。</p> <p>敷地内に雨水浸透枡を設置しています。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される